

非人間人種の台頭

——果てしなく落ちていくアメリカの全体主義的暴力

【訳者注】アメリカ（正確にはワシントンと、ワシントンに迎合する者たち）のファシスト国家への転落と人間的墮落は歯止めがかからず、信じられないことが起こっている。P・C・ロバーツのこの論文は、国家の中心である司法界の墮落ぶりを、具体的な事実に則して克明に描いている。かつてワシントンの中枢にいた事情通からでなければ、うかがい知れない世界なので、読者にとっては貴重である。今なお幻想の中にいる、あるいは故意にアメリカを宣伝するアメリカ信者には、是非読んでいただきたい。

これは同じP・C・ロバーツの、墮落していくアメリカの刑事裁判制度を慨嘆した、7/31「腐食していくアメリカ国民の人格」の続編とも言えるものだが、この中に、墮落の一形態として（検察との）「司法取引」plea bargain というものが紹介されていた。先日のNHKテレビニュースによると、わが国もアメリカに倣って、これを取り入れることにしたらしい。これは何を意味するのだろうか？

By Paul Craig Roberts

September 2, 2015



アメリカの全体主義的暴力への墮落は加速度的に進行している。ブッシュ政権と同じく、オバマ政権も、合衆国憲法を完全に踏みにじる司法省の官僚を、優遇しようとする傾向を示している。昨年、アメリカ最初の黒人大統領が、David Barron という人物を、ボストンの第一巡回控訴裁判所の裁判官に指名した。

バロンは、ドローンから発射されたミサイルで米市民を殺す法的許可を、オバマに与えた、司法省メモを作成した人物である。この処刑は、裁判所へ提出される罪状も、裁判も、有罪

判決もなしに行われた。標的となったのは、偏執症的なオバマ政権が、ジハード（聖戦）思想を奨励するものと考えた説教を行っていた、ある宗教的な男性だった。明らかに、オバマも司法省も考えつかなかったことは、ジハード思想を生み出したのは、7か国の何百万というムスリムの、ワシントンによる集団虐殺と追放だということである。説教はおそらく、中東での覇権を求める、ワシントンによる何年も続いた集団殺人に対する、道徳的憤慨がその中身のほとんどすべてだったと思われる。

バロンの承認は、共和党の一部、民主党の一部、それに米市民的自由連合（ACLU）からの反対に遭った。しかし米上院は、2014年5月、53対45の票差でバロンを承認した。考えてみるがよい。あなたは“自由と民主主義のアメリカ”で、法によらない殺人を合法とした人非人によって、裁かれる可能性があるのだ。

この出世を待っている間、バロンは、ハーバード大学ロー・スクールのある職に就いていた。これをもってしても、ロー・スクールがどの程度のものかが、わかるであろう。彼の妻はマサチューセッツ州知事に立候補していた。エリートたちは、法を権力に置き換えるのに忙しく立ち働いている。

アメリカは今、憲法を無視して裁判なしに米国市民を処刑することのできる、米法律の先例を確立した控訴裁判所判事を持ち、明らかに彼を最高裁へ向けて訓練中である。

ロー・スクールの教授団は反対したか？ ジョージタウン大学の法学部教授 David Cole は反対せず、この新しい、裁判なしの処刑の法的原則を熱烈に支持した。コール教授は、バロン支持を宣言することによって、米司法省（DOJ）の連邦裁判官候補者リストに自分の名を載せた。彼はバロンを「思慮深く、思いやりがあり、隠し事をせず、聡明」と評した。

一国がひとたび悪へと墮落すると、浮かび上がることはない。オバマのバロン指名の先例は、ジョージ・W・ブッシュが、Jay Scott Bybee を、第9巡回区のための米控訴裁判所に指名したことである。バイビーは John Yoo の司法省での同僚で、この2人は、拷問を禁止する米連邦成文法と国際法にもかかわらず、拷問を正当化する“法的”メモを作成した。その実行者をも含めて、誰もが、拷問が不法行為であることを知っていた。しかしこの2人の人非人は、拷問を行う者たちに法的承認を与えた。チリーのピノチェトでさえ、ここまではやらなかった。

バイビーとヨーは、拷問を“強化された訊問方法”だったと言って、これを廃止した。ウィキペディアの報告するように、これらの方法は、アムネスティ・インタナショナル、人権ウォッチ、犠牲者を治療する医療専門家、情報局官僚、米同盟国、それに司法省自身によって

さえ、拷問と認識されている。

バイビーとヨーによって承認された拷問に反対した他の人々には、時の国務長官コリン・パウエル、米海軍法律顧問 **Alberto Mora**、それにブッシュ政権のために 9・11 隠ぺいの指揮をとった、9・11 調査委員会長 **Philip Zelikow** まで含まれている。

5 年もの遅々とした進展の後、司法業務責任査察室は、バイビーと彼の副官ジョン・ヨーは、国際法と連邦法に違反する法的アドバイスをすることによって、「業務上不法行為」を犯したと判断した。司法省の業務責任査察室は、バイビーとヨーを国の法律家協会に引き渡し、弁護士資格はく奪を含むさらなる懲罰に付すように勧告した。

しかしバイビーとヨーは、政権に従順な司法省役人 **David Margolis** によって救われた。彼は、バイビーとヨーは「まずい判断」をしたが、間違っただけの法的勧告をしたわけではないという判断を示した。

それで今日、バイビーは資格をはく奪されることなく、最高裁のすぐ下の連邦裁判所で仕事をしており、ヨーは、カリフォルニア大学バークレー校、スクール・オブ・ロー、**Boalt Hall** で憲法を教えている。

ハーバードやバークレーの法律教授が、拷問と法的埒外の殺人のために、そして米大統領がこうした重罪にかかわったときのために、法的正当化を試みるとき、アメリカがどうなるかを想像していただきたい。明らかにアメリカは、その不道徳性、人間的共感の欠如、法とその立法精神への敬意のなさにおいて、“例外”的である。

ヒトラーもスターリンも、全体主義がアメリカの諸制度を易々と踏みにじっていくのを見て、度肝を抜かれるであろう。現在、ウェストポイントの法学教授で、アメリカ軍に、戦争や警察国家を批判するアメリカ人を殺してもよいと教えている人物がいる。

William C. Bradford は、我々の未来の将官たちに、道徳的なアメリカ人は国家安全保障にとって危険な存在だと教える教授だ。彼は、ベトナム戦争の“テト攻勢”に敗北したのは、ジャーナリスト **Walter Cronkite** が、これをアメリカの敗北と報道したからだと非難している。テトがアメリカの敗北だったと言われるのは、この攻勢が、“敗北した”敵が米軍に対して十分な攻撃能力をもっていることを、証明したからである。この攻勢は、戦争がまだ終わってどころではないことを、アメリカ人に証明したという意味では成功だった。ブラッドフォードが言おうとしているのは、クロンカイトは、アメリカの成功に対する疑いを煽ったので、殺されねばならなかったということである。

この教授は、我が国が敗北を免れるためには、消されねばならない、真実を語る 40 人のリストを持っていると言っている。ワシントンの計画がいつかは露見することが、ここで十分に告白されている。

私は、この教授が、憲法で保護されている言論の自由に対する不敬のゆえに、検閲されたとかクビになったとかいう報道を聞いていない。しかし私は、イスラエルの戦争犯罪を批判したために、あるいは、政治的コレクトネスによって禁止されている言葉や用語を使ったり、“好ましい少数者”の特権に十分に配慮しなかったために、殺された教授たちについての報告は知っている。このことが我々に語るのは、道徳が道を踏み外して、自己奉仕的なアジェンダの道を進み、悪が社会の道徳を圧倒したということである。

今日のアメリカへようこそ！ それは、事実が敵のプロパガンダと再定義されている国、法的に保護された警告者が「第五列」、または根絶すべき外国のスパイと再定義されている国、アメリカは批判を超越していて、すべての犯罪はワシントンが支配を狙う国の仕業にされる国である。

バロン、バイビー、ヨー、ブラッドフォードらは、新人類のメンバー、“非人間人種”で、これは傲慢、思い上がり、偏執症という、毒性のアメリカの環境から生まれてきたものである。